

第2回「平井澄子記念演奏会」

新曲さんしよう太夫

2007年

4月21日 土

午後2時30分開場
午後3時開演

鳥おい歌の段

浅草公会堂

浅草寺至近、伝法院前

料金 3500円 (先着500名一階席当日座席指定 / 2階全自由席)

※午後2時より座席券交換

【主催】東京労音 【後援】平井澄子の会

◆ご予約・お問い合わせは

03-3204-6633 東京労音 <http://www.ro-on.com>

●チケット取扱い=チケットぴあ 0570-02-6666

ローソンチケット 0570-0000777

CNプレイガイド 03-00-00-6660

<http://www.cnplayguide.com/>

e+(yearlink) 03-00-00-6661

<http://eplus.jp>

◆演目◆

新曲 さくら

函館労音作詞・作曲

タカラ テル作詞指導 / 平井澄子指導・編曲

演奏 全国民族音楽教室・研究会

専門家・愛好家有志合同

平井澄子「愛の世界」より

【序】「幼い日」「わがやう」「君が愛せし」

【砦】「いそいそと」

唄 山口明子

演奏・合唱 有志合同 (裏面参照)

笛 横山政司 (ふきの会)

打楽器 高橋明邦

尺八本曲「果鶴鈴慕」(鶴の巣もり)

特別出演 青木鈴慕 (人間国宝・琴古流協会会長)

新曲さんしよう太夫 鳥おい歌の段

タカラ テル作 / 平井澄子作曲

語り 東音野口悦至 (長唄東音会)

三味線 杵屋邦寿 (伝の会)

箏 坂井敏子 (ふきの会)

十七絃 大塩寿美子 (ふきの会)

笛 / 打楽器 横山政司 (ふきの会)

人形遣い 「労音車人形の会」

新曲さんしろう太夫

鳥おい歌の段

第2回平井澄子記念演奏会



平井澄子先生は、大正二年父・日本画家平井五鳳、母・山田流箏曲家平井美奈勢の長女として生まれました。

平成十四年、八十九歳の生涯を閉じられるまで、「日本の歌」「日本の音楽」の世界に大きな足跡を残されました。

山田流箏曲をはじめ、地唄、生田流箏曲、富本の演奏家であり、新内を語り、能では宝生流初の女性能楽師となり、長唄、清元にも精通。「駒しのぶ」の名で、俗曲、端唄を歌って人気を博した時期もあります。また催馬楽や古代歌謡、木遣りからインド歌曲までと意欲は尽きず、それら全てを土台に独自の音楽を創造されました。

昭和三十三年「切支丹道成寺」の作曲で文化庁芸術祭賞及び宮城道雄賞受賞。同作品が歌舞伎座本公演で六世中村歌右衛門丈によって上演され話題を呼びました。

その他、歌舞伎「平家蟹」、新劇「華岡青洲の妻」、新派、前進座など演劇、舞踊音楽も数多く作曲されました。

昭和三十七年頃からの労音との結びつきの中から民族楽団「ふきの会」の結成。全国各地での公演による普及活動、各地の民族音楽教室開設と指導援助を行う教育活動に力を注いでこられました。

普及・教育活動と並行しての創作では、「新曲まんざい」「新曲よさこい」など数多くの作品を発表。車人形との出会いによって「新曲さんしろう太夫」「佐倉義民伝」「唐人おきち」が創られ、感動をもつて迎えられました。

このたび、第二回目の記念演奏会では、「新曲さんしろう太夫―鳥おい歌の段―」をとりあげます。語りに東音野口悦至さん、三味線には杵屋邦寿さんをお迎えし、箏、十七絃、笛、打楽器には前回同様「ふきの会」の坂井敏子、大塩寿美子、横山政司の三人が揃って加わります。皆様のお運びを、お待ちしております。

演目について

平井澄子「愛の世界」より

一九六四年にCBC（中部日本放送）のラジオ番組で放送され、同年の芸術祭奨励賞を受賞した作品で、「愛」をテーマにした様々な詩を素材として作曲されました。平井先生は、邦楽の各ジャンルの発声に自由に使った作品を作りたい、との思いをかねがね持つておられ、巡り会ったこれらの愛の詩を「誰でも歌えるものに」という気持で作曲されたそうです。当時は雅楽や宗教楽器、邦楽器全般を自由に使った作曲は珍しく、時代のバイオニア的作品ともいえます。

【歌と演奏】

金沢緩子、田中田鶴子、津下美恵
浜崎美津子、三好幸子、大田潤子
広木房枝、黒須久代、川村洋子

横山章子、矢納麻貴子

【女 歌】

杉田弥生、中村きく江、三戸雅子
斉藤宣子、富山浩子、山田圭子

【男 歌】

野口賀功ほか

新曲さんしろう太夫 鳥おい歌の段

説経節は、江戸時代のはじめ頃に操り人形芝居と結びついて人気を博した語りもので、じょうりりの原点に位置するものですが、なかでも「山椒太夫」は最も人気の高い演目でした。この「山椒太夫」を新たに掘りおこすにあたり「できるだけ伝統をこわさない」よう努力し、「今のだれにもわかる言葉」に直すことに主眼をおいたと作者は語っています。同時に、「つしおおは最後まで奴隷としてあつかい、自らの力で勝利する」という形に創作しました。この内容を深く理解された上で作曲を行った平井先生の語りが、多くの聴く人の涙を誘いました。

車人形について

車人形は、人形遣いがぐるぐる車という特殊な箱車に腰をかけて操る人形芝居です。

江戸時代の末期に、北多摩郡大神村（現在の東京都昭島市）の造り酒屋の職人・山岸柳吉（初代西川古柳）が創案したと伝えられています。

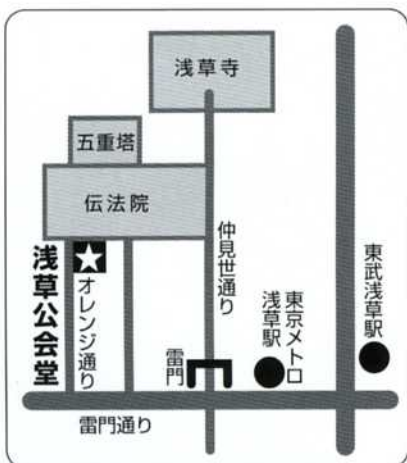
人形が舞台を自由に歩き回るところに最大の特ちょうがあり、かつては説経節と結びつき、農民芸能として大流行しましたが、その後、義太夫などの進出に押され、説経節はすたれ、車人形もその衰退を共にしました。

東京労音では昭和四十年、三代目西川古柳師を招き、車人形教室を開設。遣い手の育成に取り組み、民族楽団「ふきの会」の演奏会のほとんどに出演してきました。

【さんしろう太夫配役】

つしおお＝川瀬いとし 山岡（人買い）＝曲山祐二
次郎衛門（村役人）＝曲山由実
老婆（つしおおの母）＝城戸ひとみ

【会場のご案内】



- 東京メトロ銀座線浅草駅5分
- 東武伊勢崎線浅草駅6分
- 都営浅草線浅草駅8分
- つくばエクスプレス浅草駅5分